

福音主義神学会 東部部会
2018 年春期公開研究会

創世記 1 章は何を語っているのか？
～機能的コスモロジーの再発見～

ORIGINS
TODAY
GENESIS THROUGH
ANCIENT EYES

JOHN H. WALTON

日時：2018 年 5 月 14 日（月）

会場：お茶の水クリスチャンセンター8 階チャペル

主催：日本福音主義神学会 東部部会

後援：ジョン・H・ウォルトン師来日講演実行委員会

- ◎ どうすれば誠実な解釈者になれるのか？
- ◎ 神は人間を**通して**目的を達成される。
- ◎ 権威は聖書各巻の著者に授けられている。
- ◎ 「**私たちのために（FOR）書かれたが、
私たちに対して（TO）書かれたのではない**」
- ◎ 聖書のメッセージは文化を超越するが、伝達形態は文化と結び付けられている。
- ◎ 当時の文化の流れ（文化的文脈）の中に私たち自身を浸す必要がある。

● 近現代

- 科学的自然主義
- 資本主義
- 市場経済
- ポストコロニアリズム
- グローバリズム
- 愛国心
- 民主主義
- 個人主義
- ポストモダン主義
- 自由
- 人権
- 自然法則
- 経験主義
- 膨張宇宙
- ソーシャルメディア

● 古代

- 神の代理人
- 共同体における自己同一性
- 王権の役割
- 神話的現実
- 神殿の中心性
- 占い
- 霊的世界、魔術の現実性
- 固体の大空と閉じた宇宙
- 天体観測
- 像の仲介的役割

- **あるがままに読む**

- 普通は自分自身の「文化の流れ」から読むことを意味する。
- 直観を当てにして読むではいけない。
- 聖書の権威を受け入れるということは、著者の意図を汲み取る責任を自分自身に課すことである。
- 人間の著者が意図したことを理解すること以上にテキストを字義的に取り扱うことはできない。

- **聖書と古代中東**

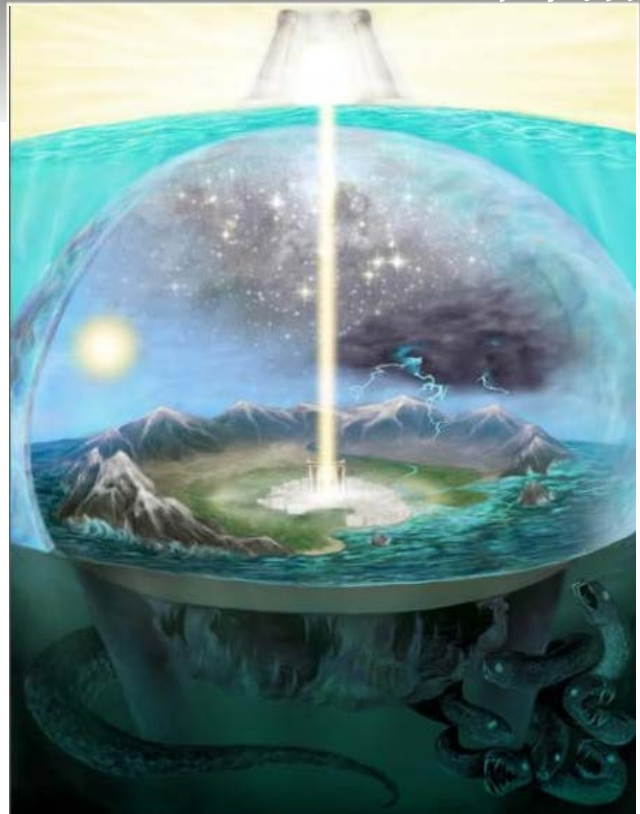
- 「借用されている」のではなく「埋め込まれている」
- 聖書のテキストに古代中東を持ち込んだり、押し付けたりすることではない。(旧約聖書がヘブル語で書かれていることと比較)
- 古代中東のテキストは、聖書テキストについて異なる仕方考えるヒントを与える。
- 時代錯誤を避けるため、古代世界で人々がどのように考えたのかについての「窓」を提供する。
- 誠実な解釈



私たちは「世界」をテキストが見るように見なくてはならない。

古代イスラエル人

どのような宇宙地理学を
抱いていたのか。



NATURAL OR SUPERNATURAL? 自然と超自然の二項対立？

- ◎ ポスト啓蒙主義の普及
- ◎ 「自然」法則
- ◎ 奇跡と介入
- ◎ 古代中東にそのような概念範疇は存在しない。
- ◎ 聖書では、何らかの事象が「自然」でないなら「不自然」だと呼ぶことがない。
- ◎ 神は私たちが「自然」だと見なすことにおいても動作主であられる。

- ◎ 古代世界で、大脳生理学は知られていなかった。
- ◎ 自意識の所在は、内臓と結び付けられていた。腎臓、肝臓
- ◎ 神はこれを訂正していない。



CONCORDISM

コンコーディズム（調和主義）

- ◎ 現代的な洞察や文化的枠組みを聖書の中に読もうとすること。
- ◎ 神の意図は、人間の著者が知っていたことを超える？
- ◎ 一般啓示を、外的な神の知識を読むための正当な情報源だと考える。
- ◎ 聖書は私たちの文化の流れを前提にしている。
- ◎ 問題点：制御不能に陥る

SCIENCE AND THE BIBLE

科学と聖書の関係

結論のまとめ

- ◎ 自然の因果関係の観察は、その構図から神を引き離すものではない。（詩篇 139:13）
- ◎ 科学的な啓示ではない。
- ◎ 聖書が科学的な主張をしているように思われる場合は、注意深く考えなくてはならない。



- ◎ 約 50 回使用される。
- ◎ 主語あるいは主体となれるのは、神だけであり、神のみわざである。
- ◎ 目的語にはかなりの多様性がある。
 - 民／特定の集団（詩篇 102:19, エゼキエル 21:30)
 - エルサレム（イザヤ 65:18)
 - 現象（風、火、雲、輝き、闇)
 - 抽象的なもの（きよさ、賛美)
 - 人間、男と女（5:2)





叙述の起点は、物質ではなく秩序の不在である。

- ◎ 暗やみと海は古代世界において非秩序を意味する要素である。
- ◎ トーファー = 価値や目的が欠如していること。
何事もなされない場所のこと。
- ◎ エジプト文献における類似概念：
未だ区別されず、機能があてがわれていないが、潜在的にはそれを持っているものを「非存在」だと言及する。
- ◎ エヌマ・エリシュ：名前がないところ、神々もない



ORDER, NON-ORDER, AND DISORDER 秩序、非秩序、無秩序

- ◎ 非秩序 (Non-order) は究極的な初期設定であり望まれない状態でもある。
- ◎ 秩序 (Order) は神々か、あるいは神々によってその使命を課せられた人間によって確立される。
- ◎ 秩序は活動的な動作主から独立してひとりで維持されることはあり得ない。
- ◎ 無秩序 (Disorder) とは、誰かが活動的に働くことにより確立した秩序を、他の行為者が崩壊させるときに生じるものである。
- ◎ 人間社会の無秩序は神々によって維持されている秩序を根底から脅かす時に生じる。
- ◎ 無秩序には非秩序が報いとなる。
- ◎ 創世記においては、神の領域にある無秩序（知恵を得ようとする事）は人間を非秩序（鬮界への追放）へと回帰させ、人間が秩序を自分たちで確立しようと試み（古代中東の人間的特権）、部分的に成功するが（町の建設や文明）、すぐに無秩序（カイン、レメク、洪水以前の人々）によって崩壊させられ、結果的に非秩序（洪水、離散）の初期設定に戻る。

ヘブル語：為す、造る

- ◎ 因果関係における役割を示唆するが、因果関係のどの次元であるのかは特定されない。

- ◎ 神がどんな手段を用いたとしても（それを私たちが自然と呼ぶか否かは無関係）、神こそが唯一の創造者である。

- ◎ 神は私たちのすべてを造られた。

FUNCTIONAL FOCUS

機能的関心

- ◎ 古代の機能的な関心によれば、「存在する」とは、機能（秩序付けられた体系において役割と目的）をもつことによって定義される。物理的構造をもつことではない。
- ◎ 「良しとみられた」 - 秩序付けられた体系において、機能的な実質をもっていること
- ◎ 創世記 1 章：機能的な起源の叙述を提供するものであり、物質的な起源ではない。
- ◎ 創世記 1 章：神が非秩序（非機能的な世界）のただなかで、秩序（機能性）をもたらすことについて
- ◎ テクストは物質の存在について関心を払っていないため、神がそれぞれの日に、どんな「物」を創造されたのかと問うことは不毛なものである。
- ◎ 命名と分離は創造のみわざの一部である。
- ◎ 宇宙の帰属についての叙述
- ◎ 家を建てることではなくて、家を家庭にすることについての話である。

PAPYRUS INSINGER

インシンガー・パピルス

太陽と月はいかにして空に上り、また沈むのか。
水、火、風はどこから来てどこへ行くのか。
神は、光と闇を創造した。その中にあらゆる被造物がある。
神は、地を創造した。何百万ものいのちを生み出し、それらが消え去ると再び生み出した。
神は、日、月、年を創造した。司令を支配する者の命令によって。
神は、夏と冬を創造した。ソティスの出没によって。
神は、生けるものに先立って、食物を創造した。田畑の不思議を。
神は、大空に星座を創造した。地にある者たちが、それらを学ぶために。
神は、甘い水を創造した。あらゆる土地がこれを望むのである。
神は、卵の中に息吹を創造した。何もそこに入入りしないのに。
神は、出産を創造した。精液から、これを受け取ったすべての胎のうちに。
神は、同じ精液から、筋と骨を創造した。
神は、すべての大地が、地の振動によって行き来することを創造した。
神は、疲労に勝る睡眠を、食物の世話をするために目覚めを創造した。
神は、病を終わらせる治癒を、苦悩を終わらせるぶどう酒を創造した。
神は、無知な夢見る者に、道を示すために夢を創造した。
神は、生と死とをご自身の前に創造した。不信心な者を痛めつけるために。
神は、正直者のために富を、偽り者のために貧困を創造した。
神は、愚かな男のために労働を、平凡な男のために食物を創造した。
神は、世代継承を創造した。彼らを生かすために。

Translation: Miriam Lichtheim (重訳: 原雅幸)

HOUSE OR HOME?

家屋か家庭か？

- **近現代の文化の流れ**

- ◎ 創造：家屋の話
- ◎ 科学がその筋道を提供する。
- ◎ 「家屋」は人が住んでいるものである。



- **古代文化の流れ**

- ◎ 創造：家庭の話
- ◎ 神学がその筋道を提供する。
- ◎ 「家庭」とは、人の人生を生かす場である。



どちらの話が最も重要なのでしょうか？

COSMOS AS SACRED SPACE

聖なる空間としての宇宙

- ◎ なぜ神は休む必要があったのか？
- ◎ 創造に伴って必要とされる休息とは何なのか？
- ◎ 古代世界では、神々は**神殿**において安息し、神殿は、神がそこで休むために建設された。
- ◎ 神殿は、宇宙の指令センターとして考えられていた。
- ◎ 神は、秩序付ける働きを止められて、今や、指揮系統を司っている。
- ◎ 安息の神学は聖書の中に見られる。
- ◎ 神はご自分の創造についての秩序付けを終えられた（シャバット）
—創世記 2:1-3
- ◎ 神の始原的な安息の場はおそらくエデンの園である。
(神の園, エゼキエル 28:13; 幕屋におけるエデン的装飾)
- ◎ 神の安息の場（メヌーアハ）、神殿から神は治められる。 —詩篇 132:14
- ◎ 神が休まれたとき、神は安息された（ヌアッハ）。—出エジプト記 20:8-11
- ◎ 神はご自分の民に休息を与えられる（ヘニーアハ 安定性, 安全性）
- ◎ 御国の安息がイエスによって約束されている。 —マタイ 11:28
- ◎ 安息はまだ完全ではない。 —ヘブル 3-4

COSMOS AS SACRED SPACE

聖なる空間としての宇宙

- ◎ 創造の叙述において6日間のことがクライマックスだと一般的に思われているが、「安息」こそ本当のクライマックスなのだ。
- ◎ 「安息」は創造の眼目である。
- ◎ 安息することによって表現されているのは、秩序付けられた体系に対する支配権である。
- ◎ 関わりを手放すことではなく始めること。
- ◎ 神の安息 (rest) は「不安」 (unrest) を晴らす。
- ◎ 様式：宇宙の帰属， 神殿テキスト， 奥深い形而上学的現実

SEVEN DAYS

天地創造の7日間

- ◎ 「日」は、24時間の期間を意味する。
- ◎ 地球の年齢に関してしばしば議論になる。
- ◎ 神殿建設
- ◎ もし、天地創造の7日間で神殿の落成に類することであれば、物体はこの7日間で造られていなければならないことはない。
- ◎ もし、この期間が、物を造り出すことではなく秩序をもたらすことに関係しているなら、天地創造の7日間は、地球の年齢と無関係である。
- ◎ 何が「起こった」のか？ ビジョンステートメント

SCIENCE AND THE BIBLE

科学と聖書の関係

メカニズム以上に重要なのは「作用（機能）」である